

まさかの備えは自分たちの手で 地域による自主防災の取り組みを広げよう！

【詳細】総務企画課地域安全担当 ☎ 681-2425

東日本大震災から、間もなく2年が経過します。私たちはあの時、自然災害の恐ろしさや自分たちの無力さを学びました。それと同時に、地域や人間同士のつながりの大切さも学ぶことができました。震災以後、学んだ教訓を生かそうと、各地域でさまざまな取り組みが行われています。

そこで、今月号では、区内で行われている防災の取り組みを紹介します。

災害直後は、行政からの支援がなかなか行き届かない場合があります。

「まずは自分たちの手で！」を合言葉に、「まさか」の時のため準備をしておきましょう。

避難所運営ルール作成

稲穂金山地区の住民でつくる「稲穂金山活性化推進委員会」は、同地区内にある8カ所の避難所運営についてのルール作りを進めています。

町内会ごとに利用する避難所の割り振り、救援物資や非常食の受領・配布、廃棄物の処理方法など、きめ細やかなルールを定めました。

今後も議論を重ね、自主運営体制の確立を目指していきます。



▲ 稲穂金山活性化推進委員会の様子

委員会において、おのおの20条で構成される規約・細則を制定し、趣旨を説明する防災懇談会を開催したが、まだまだ不備な点が多いことが分かった。とりわけ、避難所利用が冬場だと、暖房の確保は深刻なテーマとなる。今後も、HUG^{※2}（避難所運営ゲーム）体験会などを通じ、広く住民啓発を続けるが、避難所まで自力でたどり着くための手だてを、日頃から各家庭で話し合ってもらいたいと思う。



稲穂金山活性化推進委員会
いちのみや ひろあき
一ノ宮 博昭 会長

家族防災会議をしよう

災害が発生した場合に備え、家族で定期的に話し合しましょう。

- ① 災害発生時にやらなければならない事と役割分担
 - ・ 避難口の確保
 - ・ 火の元確認と火の始末
 - ・ 非常持ち出し品の持ち出し
 - ・ 高齢者などの要援護者の保護
- ② 家族とはぐれてしまったときの連絡方法や集合場所の確認
- ③ 避難場所・避難経路の事前確認



**特に冬期間は、雪害などにより、思うように避難ができないことがあります。
事前確認をしっかりとっておきましょう!!**

※ 家族防災会議については、全市版 12 ページ「災害に備える」もご覧ください。